横浜市立中丸小学校　学校評価報告書　（平成 25 年度～平成 27 年度）

平成２５年度

共通取組重点取組	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	学び合いの中で課題を解決し、豊かに表現できる学習が展開できるよう、授業改善を進めています。個に応じた学習指導・支援体制、学習形態を充実させています。	自ら問題解決に向かい、工夫して解いたり、自分らしく表現したりする姿を見せていた。自分の考えを持ち、進んで友達と交流して自分の考えを深めようとする「伝え合う」子どもたちの姿が見られてきている。	A (B) C D
2 豊かな心	「たてわり活動」を充実させ、異学年との活動を通して相手の立場を考えた行動が取れる子どもを育てています。多くの人と関わりながら自己の役割を果たし、自己有用感を高めています。	助け合ったり、協力し合ったりすることの大切さを学んでいる。自分たちの考えを出し合い、楽しい活動になるように計画したり、話し合ったり、実践したりして自己有用感を味わっている。	A (B) C D
3 健やかな体	子どもたちが企画・運営するバリエーション豊かな集会とロング昼休みの時間（毎週木曜日）を計画的・効果的に活用して体力の向上を図っています。	夏季水泳記録会やタグラグビー交流会、児童会による休み時間の企画など、新しい取組を実施し、楽しみながら目標を持って運動できる機会が増えた。	(A) B C D
4 児童生徒指導	職員は子ども一人一人に丁寧に接しています。よりよい人間関係を築く集団活動を通して、自分のよさや努力したこと、成長したことを認め合い、自尊感情を育てています。	いじめについては、丁寧な実態把握をし、早期発見や早期対応ができた。また、児童支援専任を中心に教職員が組織的に対応することで、指導や支援体制が十分に行われている。	A (B) C D
5 特別支援教育	子どもの困り感への組織的な対応、個別の指導計画シート作成等、共通理解を深めながら、特別支援教育を推進できる環境や指導・支援体制を築いています。	療育センターやカウンセラーとの連携、通級指導教室のセンター機能の利用を進め、支援を必要とする児童へのよりよい支援方法や指導方法について、全職員で理解を深め、実践を重ねることができた。	A (B) C D
6 安全管理	災害発生時に教職員や児童、家庭、地域がともに適切な対応ができるよう今ある防災教育を見直し、一層の充実を図ります。学援隊やPTAと協力し、登下校の安全確保に努めます。	PTA学援隊の設置、地域防災宿泊訓練等への協力、家庭防災マニュアルの実施、避難訓練により子どもたちの防犯力や防災力が育成されている。	(A) B C D
7 地域連携	地域での活動を見聞きし、働きかけることを通して、総合的な学習の学び方を身につけ地域への愛着と誇りが持てる単元開発に取り組んでいます。	お話会クローバー、キッズクラブ、まる倶楽部など、地域の教育力を生かした活動を継続して行い、活動の広がりが出てきている。まち懇、保護者アンケートの充実	A (B) C D
人材育成組織運営	指導力のあるミドルリーダーが中心になって、若手教職員の授業力や指導力を高めていきます。授業研究会、初任研や中丸塾、学年研究会を人材育成の場ととらえ、キャリアステージに合わせて資質や能力を磨いていきます。 学校評価委員会、保護者アンケート等で寄せられる声を大切にし、保護者に対しての説明・結果責任を意識した学校運営を組織的に進めています。	重点研究協議会の運営・進行を改善し、話し合いの焦点化を図り、有意義な研究ができた。ファシリテーター役の職員が進行したり、まとめたことを発表したりすることで、授業者の授業力向上を促すとともに、参観者自身も授業改善に向けた深い学びをする機会となった。 現職研修では、研修部や中丸塾長が中心となって企画、運営することで、充実した研修ができている。	(A) B C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	・言語活動の充実の視点を活かし、授業改善に取り組んでいる。 ・受け身ではない授業の工夫がされ、子ども同士が学び合う場面を大切にする。 ・学力差を埋めるためのていねいな基礎学習が行われている。 ・授業のルールが守られるなど、児童・生徒相互の人間関係を大切にしている。
学校関係者評価結果	健やかな体つくりへの取組、実践については評価できる。将来必要な力をつけさせたい。子どもたちの学力と体力をバランスよく育ててほしい。学校全体で子どもたちを見つめ、育てていこうとする姿勢が良い。子ども同士のかかわり合いを大切にしているところも良い。
評価結果に対する学校の見解	学校・家庭・地域が今まで以上に連携を深めて、気になる情報があれば共有していきたい。また、人材育成については、それぞれのステージに応じて充実していてとてもよい。
学校経営中期目標達成状況	中期目標の１年目なので、すべての重点取組に対する教職員の意識向上が図れたことは成果としてとらえている。次年度は地域連携の取組を充実・発展させ、まちとかかわり合いつながり合う学校づくりを通して、中期目標の具現化に迫りたい。運営改善の方向についても具体的に定まっているので、学校・家庭・地域で連携して進めていきたい。

平成２６年度

共通取組重点取組	具体的取組【案】	自己評価結果	総括
1 確かな学力	各教科で求められる「言語活動」を実践し、子どもたちの思考力や表現力を高める授業を実践していく。朝学習の時間を充実させて、国語や算数の基礎の定着と学習ルールの徹底を図る。	学習規律や学習習慣の形成に一定の成果があった。国語や社会等、各教科において課題追求型の学習過程を大切にした授業も見られてきた。英語村の実施で表現活動にも意欲が向上した。	A (B) C D
2 豊かな心	たてわり活動を充実させるために、委員会活動に「青空子ども委員会」を設置し、常時活動でできることを実施していく。	異年齢集団活動の実践が充実し、人との関わり方や自分の生かし方など豊かな体験を通して学ぶことができた。音楽朝会や幼保小連携などの交流活動を通して、ともに学び合う姿勢も育った。	(A) B C D
3 健やかな体	体力テストの結果を効果的に活用し、学年として伸ばしたい力を明確にしていく。重点研究を「体育科」とし、共同で研究を進める。	体育科の研究を進めることで、子どもたちが運動を楽しむ姿や思考判断しながら技能を向上させる姿を見ることができた。児童会や学校保健委員会など、体力づくりに特化した取り組みができた。	A (B) C D
4 児童生徒指導	子どもたちの豊かな学校生活、好ましい人間関係づくりに向けて、児童会活動や学級活動の集団活動の実践を共通理解の下に進めていく。特別活動全体計画を見直す。	丁寧な実態把握や組織的な対応により、指導すべき内容について早期に対応することができた。「子ども会議」を校内で実施し、子ども自身がよりよい人間関係について考えることができた。	(A) B C D
5 特別支援教育	通常の学級における学習面・生活面での支援として、教室環境のルールを整える。	学校カウンセラーや他機関との連携、通級指導教室のセンター機能を生かして、支援を必要とする児童へのよりよい指導の在り方を推進した。学習室を開設し、子どもの居場所づくりを進めた。	A (B) C D
6 安全管理	学校防災計画を見直し、各種訓練の時期や保護者・地域と連携した取り組みを検討し実施する。 土曜活用授業を通して、親子で防災を考える日を設定する。	防災・安全教育を充実させ、保護者や地域と協働で学校安全を確保することができた。土曜授業での引き取り訓練や緊急地震速報を利用しての訓練など、新しい試みも広く発信できた。	(A) B C D
7 地域連携	専門性をもって活躍されている方々を「横浜の時間」の学習に招き、体験的な学びを充実させていく。	図書ボランティアと協力して図書室の電算化を図り、魅力ある図書館づくりを進めた。英語村を開催し、地域の人材や保護者ボランティアを活用して外国語活動の豊かな体験ができた。	(A) B C D
人材育成組織運営	学校評価アンケートを保護者や地域、児童と広く実施し、結果を公表しながら相互理解を深め、開かれた学校運営を進める。	学校評価アンケートの分析を通して、成果と課題を検討し、学校運営に活かした。校務分掌組織を見直し、若手職員が責任を持って職務を担当することができた。	A (B) C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	・各教科で担う言語活動充実のポイントをおさえて、授業改善に取り組んだ。 ・グループ活動やペア学習等で児童・生徒同士が学び合う場面を大切にした。 ・基礎学習の習得ができるようスキル学習に取り組む時間を工夫した。 ・話し方や聞き方等のルールが守られ、児童・生徒相互の人間関係を大切にした。
学校関係者評価結果	異学年での活動や思いやりを育てる児童会活動や学校行事などについては評価できる。子どもたちがよりよい関係づくりができるよう、引き続きかかわり合いを大切にした学習や生活づくりを進めてほしい。教職員の多忙化解消については、保護者や地域で協力できることがあれば進んで取り組み、子どもたちに向き合う時間の確保を進めてほしい。
評価結果に対する学校の見解	学校・家庭・地域がさらに連携を深めて、気になる情報があれば共有していきたい。特に、SNSの問題や子ども同士のコミュニケーションの課題については、学校だけでなく、地域や家庭でも子どもたちを見つめ、育てていく必要がある。
学校経営中期目標達成状況	中期目標の2年目となり、チームとしての学校力が向上し、様々な成果が認められた。次年度はいよいよ「学力向上」に力を注ぎたい。「授業の充実」と「家庭学習力の育成」を掲げ、子どもたち一人一人の主体的な学習態度を育てていく。授業改善を図りながら、指導方法や体制づくり、学習評価など研究を進めていく。特に、次期学習指導要領の改訂ポイントを視野に入れ、どのように学ぶかについて具現化に考えていきたい。

平成２７年度

共通取組重点取組	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	「授業の充実」と「家庭学習力の育成」を目標に掲げ、学力の向上に取り組む。教えて考えさせることや協働で問題解決を図りながら活用・探求型の授業実践を展開していく。	言語活動や子ども同士の関わり合いを重視した授業実践の中で、主体的、協働的な学習活動が行われた。家庭学習が習慣化し、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながった。	A (B) C D
2 豊かな心	特別活動や道徳教育の年間計画を整備し、発達段階や目標を明確にした「たてわり活動」を展開する。「特別な教科」道徳に向け、教育用教材を効果的に活用できる授業をする。	「たてわり」や幼保小など発達段階に応じた異学年集団活動が行われ、豊かな学びが得られた。道徳や図書館教育を中心に年間指導計画を整備し、系統的な取組を行った。	(A) B C D
3 健やかな体	体育科の研究や児童会活動を通して、子どもの体力向上や運動の日常化、子ども同士の関係づくりを進める。外部人材の活用や他機関との連携で食育や保健学習を充実させる。	体育科の重点研究や様々な児童会活動、外部人材の活用等を通して、子どもの体力や運動意欲の向上、運動の日常化が進められた。	(A) B C D
4 児童生徒指導	児童会や学級活動等の集団活動を通して好ましい人間関係づくりを進め、子どもたちの自尊感情を高めていく。人権教育や道徳教育と関わらせながら、「子ども会議」に取り組んでいく。	道徳教育や人権教育と関連させた「子ども会議」が豊かな人間関係作りにつながった。組織的な対応で、子どもや保護者の思いに寄り添い、適切な指導・支援に取り組んだ。	A (B) C D
5 特別支援教育	支援を要する児童や不登校傾向の児童が利用しやすい学習室の環境を整え、有意義な学習ができるよう人的配置を工夫していく。各教室のＵＤ化をさらに進めていく。	学習室の環境整備や人的配置を行い、支援を要する児童が安心できる場作りと個に応じた指導・支援に取り組んだ。関連機関との継続的な連携で、職員の理解も進んでいる。	(A) B C D
6 安全管理	特別教室など学校の校内・校外環境を整え、効果的な教育活動ができるよう保護者と協働で学びやすい学校をつくる。防災・安全教育を地域や関係機関と連携して行い、意識を高める。	保護者や地域、関係諸機関と連携し、防災・安全教育のさらなる改善・充実を図ることができた。子どもが自分で思考判断し、自分の命を守る意識が高まった。	(A) B C D
7 地域連携	外部人材を活用した学習やキャリア教育の単元づくりを各学年で進める。地域の環境や人材を活用して探求型の学習を進めるために研修を重ねていきたい。	学年に応じた地域の環境や人材活用で、探求型の学習を進めることができた。図書ボランティアによる継続的な本に親しむ活動で、読書に対する興味・関心が高まっている。	(A) B C D
人材育成組織運営	主幹教諭やミドルリーダーを育成し、将来を見据えた学校運営の在り方を探る。メンターチームによる「中丸塾」で次期学習指導要領改訂の趣旨を視野に入れた教育課程を検討する。	「中丸塾」に主幹教諭やミドルリーダーが関わりながら、キャリアステージに応じた研修が行われた。組織の効率的な運営のための多忙化解消に取り組み、改善している。	A (B) C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	・ユニバーサルデザインを含め、学習環境が整えられている。 ・言語活動が充実し、子ども主体の話し合い活動が行われている。 ・子どもは学習に集中し、生き生きと活動している。
学校関係者評価結果	・家庭での学習習慣が定着し、基礎学力とともに主体的な学習も身についてきた。 ・異学年交流を始めいろいろな行事や学習活動で子どもの成長が感じられた。 ・年間を通した体力向上の取組で運動の日常化を図り、運動に親しむことができた。 ・地域と連携した活動を通し、子どもが地域に愛着を持っている。
評価結果に対する学校の見解	・家庭学習の習慣化や体力作りの取組、異学年交流を続け、自ら考えて行動する子を育てていきたい。 ・地域の学習に取り組む中で、材や人との関わりを通して地域への愛情を育み、感謝の気持ちを返していくとともに、社会に貢献できる子どもを育てていきたい。 ・子どもの自尊感情を高めるために家庭との連携した取組を進めたい。
学校経営中期目標達成状況	「学力向上」に向け、基礎的・基本的な学力の定着と主体的な学習をめざし、授業改善と家庭学習の定着を図ることができた。様々な活動で家庭・学校・地域が連携して取り組むことができた。今後も子どもが学校生活を楽しむとともに、自己有用感を感じられるようにしていきたい。

※当該年度の達成状況　：　A…十分達成　B…概ね達成　C…努力必要　D…改善必要

※当該年度の達成状況 ： A…十分達成　B…概ね達成　C…努力必要　D…改善必要